



さんすいちようかん
綴プロジェクト作品 山水長巻
雪舟筆 寄贈先：毛利博物館 原本所蔵：毛利博物館

日本の美を継承していくために
綴プロジェクト作品(高精細複製品)
◆国宝◆
『山水長巻』 雪舟筆

Vol.2

綴TSUZURI
文化財未来継承プロジェクト

四季に彩られた、水墨の山水。

一四六七年、日本人絵師として初めて中国に渡ったとき、雪舟(夏珪)は中国・南宋の絵師の山水の筆法を倣い、日本の風景を描いたのが、「山水長巻」である。山水図に季節を取り込み、自然や人々の暮らしを描き尽くそうと試みた最高傑作のひとつ。墨の濃淡とわずかな色彩で描かれた、印象的な四季の移り変わりが、全長十六メートルにも及ぶ絵巻物の中に続いていく。

「山水長巻」は、大内氏に寵愛された雪舟が、晩年、第二の故郷として常住した山口で描き上げ、献上したものが、戦国時代の頃に毛利家に渡り、四〇〇年以上を経て、現在、山口県・毛利博物館で保管されています。綴プロジェクトは、その原本を高精細複製品に置き換えることで、一般公開を可能にしました。狩野派を始めとする日本の画壇に、山水図の手法として写し継がれてきた雪舟の「山水長巻」。日本美術史を語るうえで、なくてはならない国宝です。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品35作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト
でご覧いただけます。
global.canon/ja/tsuzuri

公開情報

十二月八日(金)より
綴プロジェクト作品・山水長巻が毛利博物館にて公開されます。
休館日：十二月二十二日(金)～三十日(日)

